

2022年5月10日

社会技術研究開発事業
科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題 (ELSI) への包括的実践研究開発プログラム
プロジェクト企画調査 事後評価報告書

「科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題 (ELSI) への包括的実践研究開発プログラム」
プログラム総括 唐沢 かおり

1. 課題代表者

山本 奈津子 (大阪大学 データビリティ・フロンティア機構 特任講師)

2. 課題名

ポリジェニック・スコアの社会受容性に関する企画調査

3. 実施期間

2021(令和3)年10月1日 ~ 2022(令和4)年3月31日

4. 事後評価結果

プロジェクト企画調査の目標達成状況

本企画調査は、ゲノム情報に基づいて、遺伝統計学的に個人の健康リスクや知性、行動などを予測し利活用することを可能とする評価指標であるポリジェニック・スコア (Polygenic Risk Score; PGS) を対象とし、その社会導入における諸条件や ELSI 論点の考察を目標として実施されたものである。本プログラムにおけるプロジェクト企画調査として、(1)PGS を足掛かりにしたゲノム関連技術にかかる ELSI 論点の導出、(2)ELSI/RRI 研究としての課題設定の具体化と仮説構築、(3)研究・技術開発の現場との並走を目指した実施体制の構築、などの点を期待した。

企画調査の結果、文献調査を中心に、ゲノム関連技術全般と PGS の関係性、PGS の技術レベル、社会的影響の検討などについて一定の知見を取りまとめる成果が得られたと考える。ただし、PGS に関する現状の整理に重点が置かれており、ELSI 論点の抽出・考察の深化や、実施体制の構築などの点で遅れが見られ、目標を達成できていない事項があると評価する。

全ゲノム時代といった未来をも見通しながら総合的に ELSI を捉える必要があるなか、入念な議論の基盤構築のためには、社会の中に存在する多様かつ時として対立する価値や論点を丁寧に洗い出し、整理することが必要である。とくに倫理的な課題への取り組みや根源的問いの考察への接続を見据えると、普遍的・一般論的な論点の記述のみならず、それらの基盤となる主要概念の理解を深め、ゲノム関連技術や PGS の問題としてどのような視座から検討可能かを議論した上で、ELSI/RRI 研究としての基盤を構築することが重要である。研究の目的と問題意識をさらに深掘りし、全体構造を貫く議論の軸を明確化した上で、研究開発構想の具体的な設計が進むことを期待する。

以上

(別紙) 評価者一覧

〈プログラム総括〉

唐沢 かおり 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

〈プログラムアドバイザー〉

大屋 雄裕 慶應義塾大学 法学部 教授

四ノ宮 成祥 防衛医科大学校 学校長

中川 裕志 理化学研究所 革新知能統合研究センター
社会における人工知能研究グループチームリーダー

西川 信太郎 株式会社グローカリンク 取締役
／日本たばこ産業株式会社 D-LAB ディレクター

納富 信留 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

野口 和彦 横浜国立大学 先端科学高等研究院 リスク共生社会創造センター 客員教授

原山 優子 理化学研究所 理事／東北大学 名誉教授

水野 祐 シティライツ法律事務所 弁護士
／九州大学 グローバルイノベーションセンター 客員教授

山口 富子 国際基督教大学 教養学部 アーツ・サイエンス学科 教授

(所属・役職は2022年3月末時点)